



香川大学

教育学部

岡田 涼 (おかだ りょう)

所在地：香川県高松市幸町 1-1
<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/>

Profile — 岡田 涼
 香川大学教育学部准教授。
 専門は教育心理学。著書
 は『友だちとのかわりを
 促すモチベーション』
 (北大路書房)、『自己調整
 学習』(分担執筆, 北大路
 書房) など。



はじめに

「香川だったら、やっぱりうど
 んはおいしいですか？」— 2年
 ほど前に香川大学に着任してか
 ら、いろいろところで自己紹介
 をする度に幾度となくこの質問を
 受けてきました。県のPRが成功
 している証拠だと思いますが、あ
 まりにも尋ねられることが多いの
 で、ここで改めて述べておきたい
 と思います。香川のうどんはおい
 しいです。

さて、そんな香川県にある香川
 大学では、心理学を専門的に、し
 かも楽しく学べる環境が整ってい
 ます。いくつかの疑問に答えるか
 たちで、香川大学の心理学教育につ
 いて紹介していきたいと思いま
 す。

どこで心理学を学べるの？

香川大学には、六つの学部があ
 ります(教育学部、法学部、経済
 学部、医学部、工学部、農学部)。
 そのなかで、心理学を体系的に学
 べるのは教育学部です。教育学部
 には学校教育教員養成課程と人間
 発達環境課程という二つの課程が
 あります。どちらの課程でも心理
 学を学べますが、それぞれカリキ
 ュラムや教育目標、取得できる免
 許が違うので、注意が必要です。



写真1 教育学部の正面玄関

まず学校教育教員養成課程。こ
 ちらは、主に学校教員になること
 を目指す課程です。卒業までに、
 教員免許状を取得することが求め
 られます。学校教育教員養成課程
 に入ると、2年次からいくつかの
 コースに分かれていきますが、そ
 のなかの学校教育基礎コースに心
 理領域があります。学校教育基礎
 コースは、教科の枠を超えて学校
 教育の課題を考えるコースで、小
 学校教諭一種免許状を取得しま
 す。心理領域では、学校教育に関
 する問題を、心理学的な視点で理
 解し、解決する方法を学ぶことを
 目指しています。

もう一つは、人間発達環境課程
 です。人間発達環境課程は、学校
 教育だけでなく幅広い視点から教
 育や発達に関することを学ぶ課程
 です。この課程では、必ずしも教
 員免許状の取得は求められません
 (いわゆるゼロ免課程です)。人間
 発達環境課程でも、2年次から三
 つのコースに分かれていきます。
 そのコースの一つ、発達臨床コー
 スで心理学を学ぶことができます。
 ちなみに、私はこの発達臨床
 コースを担当しています。発達臨
 床コースでは、心理学(主に臨床
 心理学)と福祉学を核にしながら、
 生涯にわたる人の発達に関わるさ
 まざまな問題を考えます。人間発
 達環境課程のあとの二つのコース
 では、授業の履修の仕方を工夫す
 れば教員免許状を取得することが
 できますが、発達臨床コースでは

取得することはできません。

どんなことを勉強しているの？

二つの課程では、カリキュラム
 や教育目標が異なるので、全体と
 して学ぶことは違ってきます。た
 だ、心理学を体系的に学べるとい
 う点は共通しています。それがで
 きるのは、心理領域と発達臨床コ
 ースを担当する教員が、お互いに
 授業を提供し合うかたちでカリキ
 ュラムを構成しているからです。
 例えば、『教育統計学』という授
 業科目があります。この科目は、
 心理領域の科目になっていますし、
 発達臨床コースの科目にもな
 っています。他にも、『社会心理
 学』や『性格心理学』、『臨床心理
 学』など、心理領域と発達臨床コ
 ースの両方のカリキュラムに位置
 付けられている科目も少なくあり
 ません。心理領域の学生と発達臨
 床コースの学生が一緒に授業を受
 けることも多く、ときには同じグ
 ループになって作業をすることも
 あります。それと同時に、『心理
 学実験』や『心理検査』など心理
 学の研究法に関する基礎的な科目
 は、それぞれの領域・コースの特
 徴を出しながら独自に授業を行っ
 ています。こういったことから、
 学校での問題に焦点をおくか、も
 う少し幅広く生涯発達や福祉を考
 えるかという濃淡の違いはありま
 すが、どちらでも心理学を体系的
 に学ぶことができます。

心理領域と発達臨床コースとで
 大きく違うのは、実習に関する部

分です。心理領域では、教員免許状の取得を目指して教育実習に臨みます。心理領域で卒業要件になっているのは、小学校教諭一種免許状ですが、多くの学生がいわゆる副免として中学校や幼稚園の免許状を取得しようとするので、合計で2回の教育実習に行きます。香川大学の教育学部には、附属学校園が全部で七つあり、実際の教育現場との連携のなかで教育、研究を行っています。そのおかげで、教育実習に限らず、日ごろから実際の子どもの様子を見ながら学ぶ機会を多くもつことができています。

一方、発達臨床コースでは、『発達臨床実践研究』という授業のなかで、さまざまな福祉施設へ実習に行きます。児童養護施設や特別養護老人ホーム、適応指導教室など、いくつかの施設から学生の興味や関心に応じて選びます。この実習の目的は、大学の講義で学んだ心理学や福祉に関する知識を、現場のなかで実感をもって体験することです。実習は2年生と3年生でそれぞれ1回ずつあります。1週間ほどの実習は、学生にとって非常にインパクトが大きく、大変なことも多いようですが、大きく成長する機会になっています。疲れ切った学生の様子を予想しながら、実習終了後のカンファレンスに向かうと、学生たちは疲れた様子を見せながらも、活き活きと自分の体験を話してくれます。

どんな先生がいるの？

心理領域には、心理学を専門とする教員が3名います。有馬道久教授（教育心理学）、大久保智生准教授（教育心理学、社会心理学）、宮前淳子准教授（臨床心理学）です。発達臨床コースにいる心理学専門の教員は4名です。その4名のうち、藪添隆一教授、山田俊介教授、竹森元彦教授の3

名は臨床心理学が専門で、私（岡田）は教育心理学や学習心理学を専門としています。また、発達臨床コースには、政治学を専門とする教員と教育学を専門とする教員もいます。ですので、卒論発表会や実践研究報告会では、学生は心理学だけでなく、違った観点からの指導コメントを受けることができ、多様な観点から学んでいます。心理領域と発達臨床コース以外にも、幼児教育コースには松本博雄准教授、特別支援教育コースには武蔵博文教授、恵羅修吉教授、田中栄美子講師、教育学部附属教育実践総合センターには宮前義和准教授がおり、教育学部全体としては、心理学を専門とする教員がかなり豊富に揃っているといえます。



写真2 発達臨床コースの卒論中間発表会の様子



写真3 ゼミの様子

卒業後はどうなるの？

心理領域の卒業生の多くは、小学校の教員になります。心理学の見方や考え方を身に付け、教育現場で活躍しています。もちろん、すべての学生が教員になるわけではなく、一般企業に就職する人もいます。

発達臨床コースを卒業した学生の就職先は非常に多様です。福祉施設に就職する学生もいますが、多くは一般企業に就職します。職種や業界もさまざまです。公務員になる学生もいます。このように

就職先がさまざまだと、大学での学びが卒業後に活かされていないのではないかと疑問をもたれるかもしれません。しかし、心理学の考え方が活かされる場面は、日常生活のいろいろなところにありますし、どのような職場においても心理学の素養をもった人がいることは貴重です。必ずしも専門的な職業や特定の業界に留まらず、発達臨床コースで心理学を学んだ学生が、幅広く社会に出てさまざまな場所で活躍してくれるのは嬉しいことだと私は思っています。

心理領域と発達臨床コースのいずれからでも、大学院に進学する学生がいます。香川大学大学院教育学研究科には、心理学の研究を行える専攻として学校教育専攻と学校臨床心理専攻があります（いずれも修士課程）。学校臨床心理専攻のなかの臨床心理学コースは、平成25年度より（財）日本臨床心理資格認定協会から臨床心理士養成の指定大学院（1種）に認定されました。私は学校教育専攻を担当していますが、授業については学部と同じように、両専攻の院生が混ざって受講するものが多いです。現職教員の院生もいますので、さまざまな立場の人が一緒になって議論や研究を活発に行っています。

おわりに

香川県をPRするキャッチコピーは、「うどん県。それだけじゃない香川県」です。うどん以外にも、お遍路さんやこんぴらさん参り、瀬戸内国際芸術祭、小豆島のオーリーブなど、香川県には魅力的なものがたくさんあります。その一つに、香川大学での心理学教育も含まれます……というぐらいの気概で、教員スタッフは日々の教育に取り組んでいます。みなさん、香川大学で「それだけじゃない香川県」の心理学を学んでみませんか？